

ロードレース、シクロクロス競技におけるブレーキレバー取付け角度の制限について

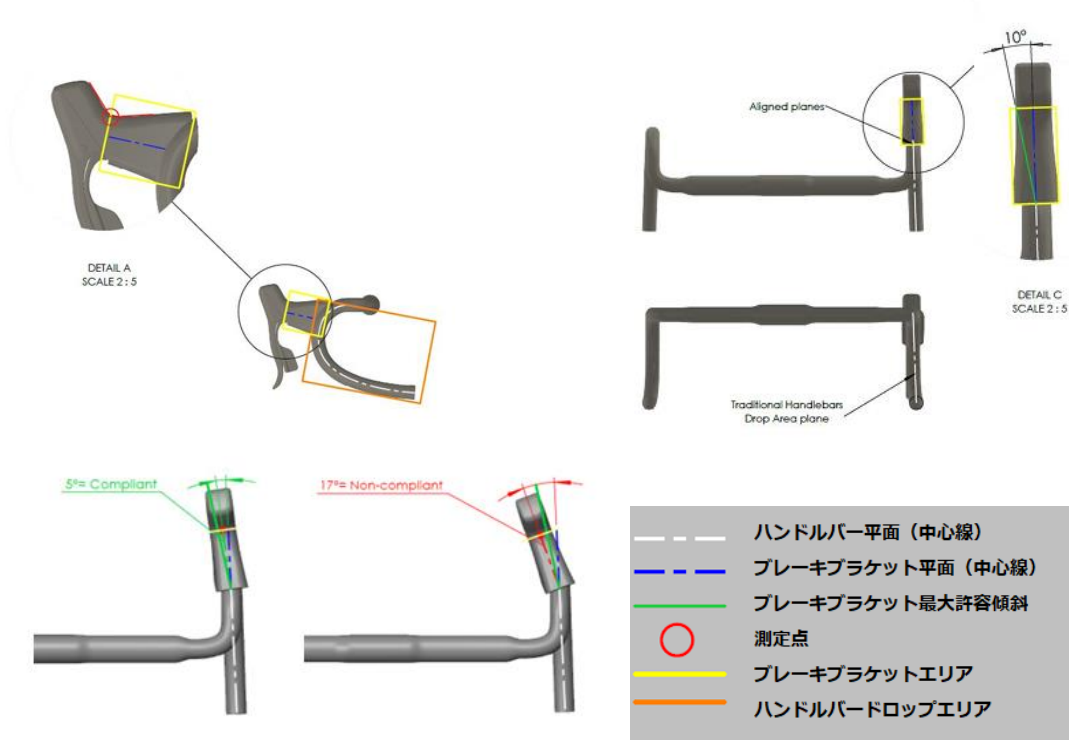
日本自転車競技連盟 審判委員会

2024年1月10日版のUCI技術規則の明確化ガイドに、ロードレース・シクロクロスに使用する自転車の、ブレーキレバーの取付け角度に関する制限の説明が記載されました。(JCF ウェブサイトの対訳版は2023年1月26版となりますので、UCI ウェブサイト掲載の最新版をご参照ください)

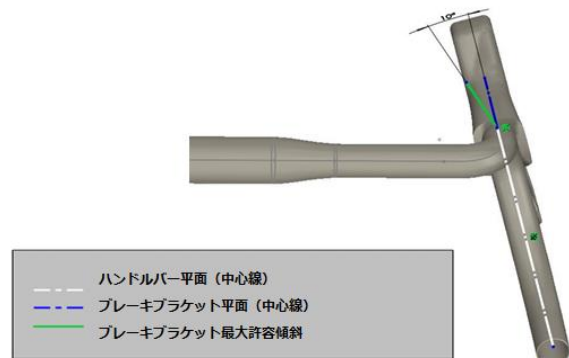
○制限の詳細 (技術規則の明確化ガイドより)

ブレーキフード本体の中心線は、トラディショナル・ハンドルの中心線 (ドロップエリア) と一致していなければなりません。

レバー・サポート (ブレーキブラケット) に手を添えてレバーを引くことにより、ブレーキ・システムを安全に、かつ設計 (または意図) 通りに操作できるようにするため、ハンドルバーとレバーのそれぞれの中心線間に最大 10 度の傾斜が認められます。



ハンドルバーのバーエンドが外に広がっているタイプのハンドルバー (通称フレアタイプ) の場合も、ドロップ部の中心線を基準平面としてブレーキブラケット中心線間最大 10° の傾斜が認められます。



○解説

この制限は、ブレーキレバーが特に内側へ大幅に傾けて取り付けられた場合に、ブレーキレバーの正しい操作に支障をきたす可能性があること。また、製造者の意図としない取り付けをすると、製品として正常な動作をしない可能性があり、結果的にレースの安全性を脅かすこととなり、それを防ぐために規定されたと考えられます。

○日本国内での運用について

UCI 技術規則の明確化ガイドは競技者の装備に関する UCI 規則を解説、補足するものですので、競技大会においてはガイドに記載されている規則運用がなされます。

この制限が満たされているかをバイクチェック時などで確認する際、正しく計測するためには計測する基準を理解したうえで行ってください。また、測定ジグなどが無く、厳密な計測が困難なことが見込まれる場合は、傾斜制限の主旨である安全性を担保するという意図を損なわないことを目的とした競技運営を行ってください。

本条項は随時改訂される可能性がありますので、UCI ウェブサイト等にご注意ください。
ここに掲載された日本語と UCI ウェブサイト上の文言に齟齬がある場合、UCI ウェブサイト原文が優先されます。

以上

・参考リンク

UCI 技術規則の明確化ガイド（英語） [Equipment | UCI](#)